

## 2022 年度第 5 回価格審査会の開催について

2022 年度第 5 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 8 月 15 日(月)～17 日 (水)
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 竹本 康之 東日本建設業保証株式会社 業務部 業務サービス課長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本建設業保証株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：今井 豊 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2022 年度第 4 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 5 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管ぐい、鋼管、鋼板（全都市）、H形鋼(青森市ほか 38 都市)、セメント（水戸市ほか 6 都市）レディーミクストコンクリート（弘前市ほか 75 都市）、コンクリート用骨材（福島市ほか 36 都市）、道路用砕石(盛岡市ほか 37 都市)、再生砕石（盛岡市ほか 14 都市）、コンクリート型枠用合板（全都市）、アスファルト混合物（新潟市ほか 58 都市）、ストレートアスファルト（那覇市）、非鉄スクラップ・鉛・亜鉛（東京、大阪、高松）など	
・価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
異形棒鋼(札幌市ほか 57 都市)、ねじ節鉄筋(青森市ほか 45 都市)、600Vビニル絶縁電線（全都市）、電線（全都市）、燃料油（札幌市ほか 61 都市）鉄スクラップ(全都市)、非鉄スクラップ（全都市）など	

2. 比較資料		
・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	一般建築用木材は、輸入木材の供給回復により下落、一方、コンクリート型枠用合板は、原木不足による供給不足で続伸という状況で、どちらも原材料の多くは輸入品であるが相対する価格動向となっている。両製品の代表的な原材料供給国と、なぜ、一方では供給回復となりながら、他方は供給不足が継続しているのか。	一般建築用木材の主な供給地は北米および欧州である。自国の需要減退により、日本への供給量は回復傾向にある。一方、コンクリート型枠用合板の主な供給地は東南アジアである。現地の慢性的な原木不足と労働者不足により、供給不足が解消されていない。
質問 2	非鉄スクラップは上伸と下落が混在する状況であるが、その混在理由は「市場地域差」ではなく「スクラップの種類（銅・アルミが下落、鉛・亜鉛が上伸）」によるものか。	市場の地域差ではなく、種類別の国際相場の影響によるものである。銅・アルミが全国で下落したのに対し、鉛（大阪・高松地区）・亜鉛（東京地区）が上伸となった。
質問 3	ビル用アルミサッシ関連の複数製品が大幅に上伸した理由は「原材料(アルミ地金)の値上がりに伴うメーカーの価格改定」とある。一方、アルミのスクラップ市場は下落傾向にある。アルミ材料価格に関するこの違いは、タイムラグによるものか。	昨年末からのアルミ地金の値上がりを背景にアルミサッシメーカー各社は販売価格を大幅に引き上げ、それが浸透した。非鉄スクラップは直近のアルミ国際相場の影響により下落傾向となっている。
質問 4	コンクリート用型枠合板は全国的に 2020 年 12 月より毎月のように価格は上伸しており、2 倍近い価格となっている。供給量不足と現地価格上昇が大きな要因だと思われるが、入荷量は 2 年前に比べて大きく減少しているのか。現地価格の上昇分の割合はどのくらいなのか。	過去 2 年間に於いて入荷量は回復せず、日本国内の市中在庫は極めて低水準で推移している。需要家は材料手配優先で値上げを受け入れている。商社の調達価格は地価格の上昇分が反映されており、商社、流通筋の口銭に大きな変化は見られない。価格上伸は、現地価格の上昇分が反映された結果である。

質問 5	レディーミクストコンクリートの新潟地区価格は、ここ数年、毎年上昇しており変動が大きい、特殊な理由があるのか。	新潟地区の組合は、これまで員外社との競合の影響から安値販売を余儀なくされていたが、施設老朽化に伴う維持修繕費、人件費、燃料価格の上昇やセメント価格の値上がりを受け、採算重視の姿勢に転換し、販売価格への転嫁を進めた。他地区と比較して相対的に安値であった販売価格の値戻しを図ったことにより、ここ数年は毎年値上げが市場に浸透した。
質問 6	セメント価格の新潟地区で7月の値上げから2カ月しか経過していないにも関わらず、主要10都市の中で那覇の最高値に次ぐ価格に急伸している理由は何か。	ここ数年新潟地区のレディーミクストコンクリート価格低迷により、セメント価格は据え置きが続いていた。レディーミクストコンクリートの市況好転とともに、セメントメーカーは新潟を重点地区の一つとして交渉を行った結果、値上げが浸透した。
質問 7	一般建築用木材の下落理由として、輸入木材の供給回復を背景とした需給緩和とあるが、日本への主な輸出国はどこか。また、(米ドルに対する)円安傾向は輸入価格に影響はないのか。	一般建築用木材の主な供給地は北米および欧州である。自国の需要減退により、日本への供給量が回復傾向にある。価格競争力維持を意識した価格設定がされているため、円安傾向が輸入価格に与える影響は、限定的となっている。
質問 8	再生砕石類で今回値上がりした都市の上伸理由は、「輸送コストおよび製造コストの増加を背景としたメーカー各社の値上げが浸透した」とあるが、主要10都市では、今月も含め1年以上価格変動が見られない。これは大都市では、上記理由を上回る需要の低迷があると理解すべきか。	大都市では、廃材の受入れ量に対して、再生砕石の需要が伸びないことが値上げを困難にする要因となる。大都市では建築物の解体も多く、原材料となるコンクリート廃材も潤沢に入手できる反面、再生砕石の需要が伸びず廃材及び再生砕石の在庫が過剰となる傾向にある。廃材受入れで高い収益があげられる一方で、在庫を捌きたい意向から製品値上げが困難な状況となっている。

質問 9	<p>仮設・土木用木材、一般建築用木材は、輸入木材の供給量や原木の過不足の状況により、これまでほぼ同様の値動きを示してきたが、今回は前者が上昇、後者が下落と逆の値動きになっているのはなぜか。</p>	<p>2021 年はウッドショックを背景とした木材全般の供給不足により、仮設・土木用材、一般建築用木材の双方において強基調で推移してきたが、状況は変化している。仮設・土木用材は、原材料である国産原木が構造用合板向けとバイオマス発電向けに供給され、不足している。一方、一般建築用木材は、需要の大半を占める輸入品が供給国の需要低迷を背景に供給量が回復し、需給緩和したことにより下落した。</p>
質問 10	<p>構造用合板が全国の主要都市で価格が上昇している理由として、「メーカー火災等の影響で供給不足の懸念」とあるが、どのような火災事故か、また全国に影響するものなのか。</p>	<p>(株)日新の本社工場にて火災が発生した。製造ラインに被害があり、復旧には時間が掛かる見込みである。同社は長尺サイズにおいて全国シェアトップのメーカーであるため全国に影響を及ぼす可能性が高い。</p>
質問 11	<p>法面緑化ブランド品、擬木コンクリート製ブランド品の価格下落の理由は何か。同様の製品は原材料の値上がりで価格が上昇している。</p>	<p>下落した製品は、メーカーによる他社製品との競合状況、原価や利益率などを考慮した価格体系の見直しを行ったことによるものである。</p>
質問 12	<p>異形棒鋼は 2,000 円の下落、H 形鋼は 2,000 円の上伸、鉄スクラップは下落の状況下、異型棒鋼と H 形鋼でこのような差が生まれているのは再開発事業、倉庫事業といった大型案件によるものという事か。大型案件だと異形棒鋼の需要はあまりないということなのか。</p>	<p>再開発事業（高層ビル）や倉庫案件は、柱や梁などに H 形鋼やコラムが使用される鉄骨造（S 造）であり、異形棒鋼が主に使われる鉄筋コンクリート造（RC 造）とは構造が異なる。再開発事業（高層ビル）など大型案件に対して異形棒鋼の需要はあまりないといえる。異形棒鋼、H 形鋼の価格変動（下落と上伸）は、大型案件等の動向も一部要因であるが、異形棒鋼が直送に対して、H 形鋼が在庫販売であることによる販売形態の違いが主な要因となる。直送は原価変動の影響を早く受けるのに対し、在庫販売は仕入れ簿価の変動が徐々に市場に浸透するため、価格変動に時間差が生じる。</p>
審議結果	<p>「建設物価」9月号、「Web 建設物価」9月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上